

東京音楽大学 器楽専攻弦楽器

TCM

基礎から、実践へ

Introduction

6つの専門楽器に特化した「弦楽器」コースでは、1年次から奏者としての技術をしっかり学んでいきます。毎週のオーケストラ授業、第一線で活躍する演奏家による直接指導、学生だけで編成する3つのオーケストラなど、4年間の学びをとおして養われるのは、音楽のプロとして必要な実践力。基礎から実践までフォローする理想的な学びの場が、ここにあります。

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、
ハープ、クラシックギター

プロとしての
実践力を養う

専門楽器ととことん向き合う 4年間。

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギターの6つの専門楽器の実技指導に特化しているのが、「弦楽器」コースの特徴。充実した授業内容と講師希望制などで、音楽と徹底的に向き合える環境です。



Feature 1

オーケストラ&室内楽の授業が充実

1年生の弦楽器のみで構成する「Bオケ」、2~4年生を中心にした管弦楽の「Sオケ」「Aオケ」という3つのオーケストラが生まれ、また室内楽（弦楽四重奏）の授業も4年間受講可能。演奏者同士が互いに触発され、自主的な表現をもちながら調和と創造を経験することで、人間的にも成長できます。



Feature 2

3・4年次の弦室内楽は講師希望制

3・4年次の弦室内楽の授業は、グループを組み、希望する2名の担当教員のもと、年間10回以上のレッスンを受講できます。古典派、ロマン派、近代、現代の作品の中から教材を取り上げ、各グループおよび学生の能力に応じた授業計画を策定。自主性を尊重したカリキュラムで、より実践的な学びにつなげます。

在学生Message

「積極的に学ぶ姿勢があれば、先生が必ず応えてくれる」

大学院1年 ヴァイオリン
福田麻子さん

大学時代は、尊敬する先生からたくさんレッスンを受けることができました。4年次のオーケストラの定期演奏会でコンサートミストレスを務め、皆で演奏会を成功できたのはいい思い出です。また、学内のコンク

ールや短期留学など、東京音楽大学の優れたシステムを活用できたと思います。大学で4年間勉強し、さらにレッスンや室内楽の勉強をしたかったので大学院に進学しました。大学院にもなると、楽曲分析演習の授業は少人数で先生との距離が近く、ときどき先生方と演奏することができるのも大変役に立っています。演奏家を目指す方もそうでない方も、専門的に学ぶにはいい環境です。自分から積極的に学べば先生方が応えてくれますので、高い志をもって励んでください。



Feature 3

6種の楽器を基礎から専門的に学ぶ

コンサートマスター経験者を含む現役演奏家が直接指導を担います。演奏技能の向上はもとより、音楽活動経験の豊富な教員たちの姿勢を学ぶ点でも貴重な機会です。個人レッスンでは上手に弾くことのみを目的とせず、作品を理解・解釈し自らのメッセージとして演奏することを追求していきます。

学びと指導の特徴

ヴァイオリン



卒業までにどれだけ努力したかにより、社会に出た後に大きく差が出ます。演奏家としてのみならず、努力によって身についた我慢強さはどんな進路においても必ず生きてきます。個性を大切に技術を磨き、非量産的な演奏家を目指します。

ヴィオラ



本学は、日本で数少ないヴィオラを専門的に学ぶ大学のひとつです。学生の多くはヴァイオリンからの転向。入学後は技術、考え方を基礎から学びます。特に室内楽の授業では、アンサンブルのなかでヴィオラ独自の音の表現を目指します。

チェロ



第一線で活躍する現役演奏家が、実際に演奏しながら指導を行います。個人レッスンと並行して1・2年次は弦楽四重奏の基礎を学び、3年次からは希望する学生同士で弦楽四重奏団を結成。オーケストラでの振る舞いも体感していきます。

コントラバス



一般的に習い始める年齢が遅い楽器のため、プロを目指すにはほかの楽器以上の努力が必要です。ソロだけでなく、アンサンブル力を磨くため実践的な知識・技術を養っていきます。東京音楽大学では、特にオーケストラスタディに力を入れています。

ハープ



学生独自のベースで個性と音楽性を引き出し、伸ばしていくための指導を行います。ギターとハープのアンサンブルや、同属楽器のアンサンブルとしてハープデュオやトリオの演奏もあり、より美しい音色が生まれる経験ができます。

クラシックギター



ほとんどの学生がプロを目指します。教えるのは、演奏する作品の魅力を引き出すためのいろいろな解釈の方法です。楽器を上手に弾くための技術だけではなく、より豊かな表現力が身につくよう、感性を磨くことに力を入れています。

Curriculum

器楽専攻弦楽器の主なカリキュラム

「弦室内楽」、「管弦楽または合奏」は、1・2年次で必修科目、3・4年次で選択科目として学べます。また「弦楽アンサンブル」は、1~4年次の選択科目として学べます。

	1年次	2年次	3年次	4年次
専攻科目	弦楽器実技I(必修) 弦室内楽I(必修) 管弦楽または合奏IA/IB(必修) 弦楽アンサンブル(1)(選択) ピアノ(副科)I	弦楽器実技II(必修) 弦室内楽II(必修) 管弦楽または合奏II(必修) 弦楽アンサンブル(2)(選択)	弦楽器実技III(必修) 弦室内楽III-1(選択) 管弦楽または合奏III(選択) 弦楽アンサンブル(3)(選択)	弦楽器実技IV/卒業演奏(必修) 弦室内楽III-2(選択) 管弦楽または合奏IV(選択) 弦楽アンサンブル(4)(選択)
専門基礎科目	ソルフェージュI 和声I 西洋音楽史概論1・2	ソルフェージュII 和声II		
英語	英語コミュニケーション1・2	英語コミュニケーション3・4		

【主な選択科目】
●専攻科目:管弦楽または合奏III・IV、吹奏楽1~4(コントラバスのみ)、弦室内楽III-1・2、弦楽アンサンブル、リサイタル試験
●共通科目:専門基礎科目、専門共通科目、音楽学課程、他専攻科目、選択教養・外国語
*カリキュラムの詳細はホームページをご覧ください。

「求めた分だけ得られる環境で、存分に学んでください」

2011年大学卒業 2015年大学院(修士課程)修了/東京フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリンTutti奏者
巖築朋美さん

大学院在学中に東京音楽大学の奨学金制度を利用して、「ザルツブルク・モーツァルテウム・サマーアカデミー」に参加しました。それがきっかけとなって、東京音楽大学を休学し、ドイツのフライブルク音楽大学大学院にも留学しました。

東京音楽大学の授業で特に役立ったと感じるのはオーケストラや室内楽の授業です。現役でソロや室内楽・オーケストラで活躍されている先生方が指導してくださり、一生のものとなる助言をたくさんいただきました。練習環境が整っているだけでなく、日々の練習の成果を発揮する機会も多くあります。大学生活では楽しいことだけでなく苦しいこともあると思いますが、それが血となり肉となり、自分の財産になります。求めれば求めた分だけ得られる環境で、存分に学んでください。



入学試験情報

試験科目について 以下の5科目が必須です。

- 1 — 外国語
(独) 大学入試センターが実施する外国語試験の利用、または各試験・検定試験の証明書を提出
- 2 — 楽典
- 3 — 新曲視唱
- 4 — 聴音
- 5 — 実技試験
・専攻実技
・副科実技 (ピアノ)

●詳細は各年度の『入学試験課題曲』、『入試要項』でご確認ください。本学ホームページの入試情報からもご覧になれます。



FAQ

Q1 留学制度はありますか？

弦楽器の学生の留学先には、モーツァルテウム大学、シベリウス・アカデミーなどの協定校があります。また、バイエルン州立青少年オーケストラとの協定があり、バイエルン放送交響楽団のメンバーが主な指導者の演奏旅行を兼ねた夏・冬2週間の合宿に毎年学生を派遣しています。参加費はバイエルン州が負担し、渡航費の半額を本学が負担しています。

Q2 奨学金制度について教えてください。

学業成績が優秀な学生への褒賞として、各種奨学金制度を用意しています。2019年度は、特別特待奨学生13名、給費奨学生35名、短期留学奨学生14名にそれぞれ支給されました。その内、弦楽器の学生は、特別特待奨学生2名、給費奨学生4名です。

Q3 大学院では、どんなことを学びますか？

卒業後、大学院に進学する学生も多くいます。大学院では客観性と個性をもち合わせた経験豊かな教授陣が学生とともに研究課題に取り組み、学生の意欲に対し最大限のサポートがなされています。具体的には、個人レッスンの「器楽実習」のほか、弦楽アンサンブルを学ぶ「器楽特殊研究」、ほかの楽器との「室内楽実習」などの授業をとおして、奏者に必要な実践的な技術と専門的な知識を身につけることができます。

中目黒・代官山キャンパス (学校法人本部)
〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1
Tel. 03-6455-2700 Fax.03-6455-2770

池袋キャンパス
〒171-8540 東京都豊島区南池袋 3-4-5
Tel. 03-3982-3186 Fax.03-3982-3183

最新情報は
WEBで⇒
<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

